



令和4年9月20日
環境創造局南部農政事務所

戸塚区役所の屋上水田で 小学生が稲刈り！



戸塚小学校5年生（4クラス 150人）は、戸塚区総合庁舎8階の屋上農園内の水田（地上34m）でJA横浜、舞岡町の農家等の協力を得て、1年間に渡りお米づくりを行っています。屋上水田でのお米づくりは、平成25年に戸塚区役所が移転してから始まり、今年で9回目になります。

6月に児童が一生懸命植えた苗に穂が実り、いよいよ稲刈りを行います。児童が鎌を使って刈り取りに挑戦し、収穫の秋を実感するとともに、農業への理解や地産地消への関心を深めていただきます。

1 稲刈りの概要

■日時：9月29日（木）9：20～12：00

■場所：戸塚区総合庁舎8階 屋上農園内の水田（約50㎡）
（戸塚区戸塚町16-17、JR・市営地下鉄戸塚駅徒歩2分）

※天候等により、順延・中止する場合があります。
※稲刈り後は屋上農園で天日干しを行い、収穫したお米（品種はるみ）の脱穀・精米を10月に行う予定です。
※精米したお米は、全量を戸塚小学校に引き渡します。



田んぼの様子。(令和4年9月12日撮影)
今年も黄金色の稲穂が屋上庭園来場者を出迎えています。

2 屋上農園の概要



屋上農園には水田の他、畑、壁面果樹園などがあります。

畑や壁面果樹園では、市民ボランティアが管理活動を行っています。水田の日常管理は南部農政事務所が行っています。

面積等	
水田	約50㎡
畑	約40㎡（9区画）
壁面果樹園	プランター14基
芝	約145㎡

（裏面あり）

3 屋上水田の特徴

(1) 不耕起栽培

屋上水田は、荷重の関係から耕土の厚さが通常の水田よりも薄く、通常の水田のような耕うん（耕す作業）や代かき（植付前の水田に水を入れ、機械などで土を攪拌する作業）ができません。また、深く掘ると下層の防水シートを傷め漏水の恐れもあります。そこで、不耕起栽培という耕うんや代かきを行わない、もしくは最小限しか行わない方法で栽培します。

(2) 環境にやさしい屋上水田

屋上水田は、昆虫、水生生物など多様な生きものの住みかとなり、良好な生態系、生物多様性の保全の一助となっています。また、植物による被覆や蒸散作用により、温度上昇の抑制やヒートアイランド現象の緩和等にも貢献しています。



4 屋上水田の効果

小学生は自分たちで稲を育てる体験を通して、農業への理解や地産地消に関する関心を深めていきます。また、JA 横浜、舞岡町の農家、児童の保護者、屋上農園内の畑で活動する市民ボランティア等の協力を得て行われ、都心部の屋上の水田が、食糧生産だけでなく、環境保全や地域の人と人をつなぐ場としての機能も果たしています。

5 田植え及び前回の稲刈りの様子（参考）



田植え（令和4年6月16日実施）



前回の稲刈り（令和元年9月24日実施）



*取材について：取材の際は、9月28日（水）12時までにご連絡ください。

なお、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、検温・手の消毒・マスク着用をお願いいたします。



「横浜農場」について・・・
「横浜農場」は、食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場として見立てた言葉です。横浜市では、この「横浜農場」を使い、横浜の農業のPRを進めています。

お問合せ先

環境創造局農政部南部農政事務所長 澤田 悦子 Tel 045-866-8490